

# 南小だより

[minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp](mailto:minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp)

令和4年10月3日

10月号

さいたま市立南浦和小学校  
電話 048-861-3781



## 「引き算」のすすめ

校長 小野 圭司

「ミニマリスト」や「シンプリスト」等の言葉や人が注目されるようになったのは、数年前からでしょうか。あるインターネットのサイトで「ミニマリスト」の意味を調べてみると、「衣食住について必要最小限の物で生活をするライフスタイルを実践している人のこと」とありました。私も教職員に、「ある著書によると、整理整頓ができていないと探し物に年間150時間も費やす計算になる」という話をし、整理整頓を指導したことがあります。物や情報などが多過ぎることによるデメリットが考えられ、少し足りないくらいの方が生活しやすかったり、心が豊かになったりする気がします。

今回、このことを強く感じたのは、9月28日（水）～30日（金）の「高杖自然の教室」に5年生と一緒にきてきたおかげだと思います。必要最小限の持参した物で多少の不便さを感じながらも、仲間と一緒に過ごす楽しさや自然の豊かさなどを十分に味わうことができました。物事を「引き算」していくと、本当に大切なものだけが残され、その大切なものが一層際立つことになるのではないのでしょうか。いつもはご家族にサポートされながら生活している5年生は、今回の経験により日常生活のありがたさをきくと感じる事ができたことと思います。

また、9月21日（水）に実施した「ふれあいタイム」でも、この「引き算」のよさを感じました。電子ゲーム等で遊び慣れた子どもたちが、昔ながらのシンプルな遊びで一喜一憂している様子が見られました。異学年の兄弟クラスごとに「だるまさんがころんだ」や「フルーツバスケット」などの遊びに取り組んでいました。きっと遊びの内容は二の次で、いわゆる「お兄さんやお姉さん」、年下の子たちとの交流に特別感を感じていたのではないのでしょうか。上の学年の子が下の学年の子にやり方を教えたり、下の学年の子が上の学年の子に質問したりすることがメインになったはずですが、これが人気の電子ゲームであったならば、「これ、知っているよ。じゃあ、対戦しよう。」で終わり、異学年との充実した交流に至らなかったはずですが。

最後に、学校だより6月号で、今年度からさいたま市内の全ての市立学校168校でコミュニティ・スクールを実施することをお知らせしたところですが、さいたま市ではこのことをPRしコミュニティ・スクールの一層の推進を図るため、168校全ての学校に同じ横断幕を掲げることになりました。実は本校の学校運営協議会が応募したフレーズが、その横断幕に掲載されることとなりました。そのフレーズとは、

**子どもの未来、地域の未来をつくる さいたま市コミュニティ・スクール**



です。このフレーズが掲載された横断幕が市内168校に飾られます。本校では、校舎3階のベランダに掲げ、子どもたちはもちろん、多くの皆様に見ていただこうと考えています。そして、このフレーズの趣旨を踏まえ、本校の子どもたちや本校を支えてくださっている地域の未来を皆様でつくっていただければと思います。併せて、このフレーズについて協議していただきました学校運営協議会委員の皆様にも御礼を申し上げます。ありがとうございました。

